

「みらい東」の実践紹介

外国人児童初期支援コース「みらい東」基本データ

1 場所

豊岡中学校 北校舎1F (H30 開講 4年目)

2 担当

浅野ゆかり 山下文哉 (豊岡中職員)

大本グラシア(ポルトガル語相談員) 村田ニーニャ(タガログ語相談員)

築樋博子(「みらい東」コーディネーター)

3 対象の中学校(5校)

豊岡中、東部中、東陽中、青陵中、東陵中

■教科の指導について(数学編)

今号では、「みらい東」の数学指導について、ご紹介します。「みらい東」での数学指導は、少人数で行うことが多いため、個に応じたきめ細やかな指導をすることができています。

(1) 使用教材

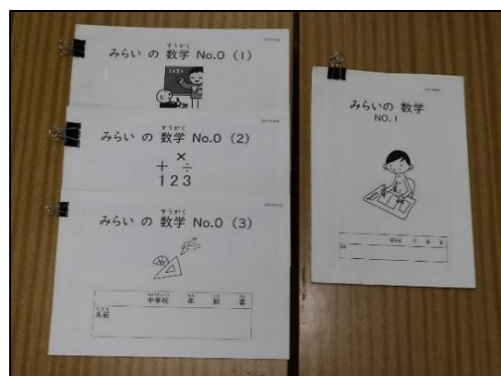
今年度、主に使用している教材は、4冊です。(左写真参照)

中学生で編入する外国人生徒は、母国によって数学のカリキュラムに違いがあります。そこで生徒の実態に応じて、数字の書き方や、言い方、四則演算で使う記号の確認などから始めていきます。「みらいの数学No.0(1)~(3)」は、小学校の学習内容をまとめたものです。指導の導入として帯学習で使ったり、家庭学習の教材として活用したりしています。

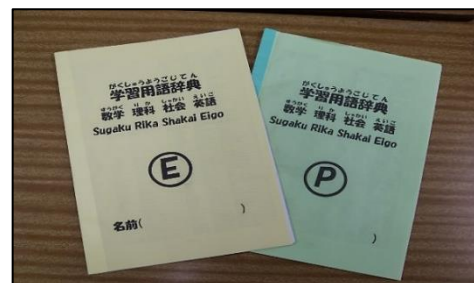
授業形態が一斉指導の場合は、主に中学校1年生の内容の「みらいの数学 No.1」を使用しています。この教材は、数学の副教材の「数学の友」をベースに作成し、全文にルビを付けています。10週間という短期間で学ぶ教材なので、単元としては一次方程式までを扱っています。

(2) 学習語彙を増やすための辞書

「みらい」の生徒は、得意不得意の差はありますが、母国での学習経験があります。数学指導では、母国での学習したことを思い出しつつ、日本語で数学用語を押さえていく場面がたくさん見られます。「符号」や「移項」など、新しい数学用語に出会ったときには学習用語辞典(文部科学省「JSL カリキュラム数学」参照)を活用しています。母語の教科用語を知ることによって、自分でインターネットなどを使って調べたりする生徒もいます。



① みらいの数学の教材。
No.0(1)~(3) (写真左)が小学校の復習で、No.1 (写真右)が中学1年生の内容。



② 学習用語辞典。ポ語、タガログ語の他に、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ベトナム語にも対応しています。



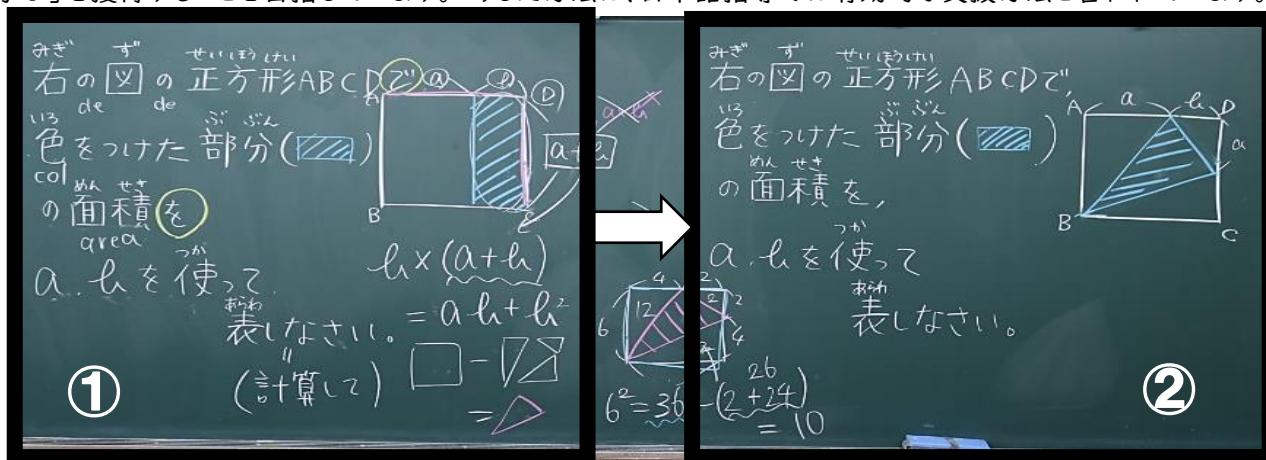
教材の閲覧や貸し出しも行っています。いつでもお声がけください。

(3)授業の実際

数学の授業は、「教科(数学)と日本語の統合学習」です。「教科と日本語の統合学習」というのは、教科の内容と日本語を同時に学ぶ学習プログラムで、教科の文脈から切り離さず日本語の語彙や文型を学びます。母学級では1時間で学ぶ内容を、「みらい」では、スモールステップでの指導で、2~3時間かけて行っています。どの学年の生徒でも、1年生の「正の数・負の数」から学習を始め、概ね4~5週間でその単元を終えます。5週目辺りから、2・3年生は、それぞれの学年に応じた学習内容にシフトしていきます。

下の写真は、8週目を過ぎた3年生の生徒の指導の板書です。これは「数学の友」にある「正方形に内接する三角形の面積を求める問題」ですが、そのままだと数学的な難易度が高く、生徒には日本語と数学の両方が難しい状況でした。そこで、まずは問題文の日本語の理解を徹底するために、①のように問題の設定を簡略化して、数学の基礎的な考え方から学習を始めました。そして、日本語の問題文の意味も、数学の基礎的な考え方も理解ができた上で、②の「数学の友」の問題にチャレンジしました。

「みらい」の数学指導では、このように数学と日本語の両方に、生徒の実態に合わせた「スキヤフォールディング」=足場」を積み重ねて指導を進め、スキヤフォールディングの量を徐々に減らしていき、最終的には生徒が自律した「学び」を獲得することを目指しています。こうした方法は、日本語指導では有効的な支援方法とされています。



小田相談員のブラジル紹介



Olá(こんにちは)! バイリンガル相談員の小田キミエです。

今回は、ブラジルの学校の紹介をします。

ブラジルでは、子どもだけで徒歩で学校に行くということがなく、スクールバスか保護者の送迎です。服装は学校によって違い、制服を使う学校も、自由な学校もあります。髪型は自由で、ピアスやマニキュアをして学校へ行く子もいます。カバンも自由で、重いものを子どもに持たせることは体に良くないと思う保護者は、キャスター付きのカバンを使わせます。



昼食は学校で作られますが、日本のように皆が同じものを食べる給食ではありません。学校の昼食を食べる子もいますが、お弁当を持って行ったり、売店で何かを買ったりする子もいます。昼食の時間や休み時間には、みんな一緒にお菓子を食べたりジュースを飲んだりします。

これがブラジルの子どもたちの一般的な学校生活です。子どもたちは、来日による文化間移動で、戸惑うことも多く、日本の学校生活への適応に時間がかかる場合もあります。どうか温かい目で見守ってあげてくださいね。



売店(Cantina)

リボン

お菓子



食堂(Refeitório)

ジュース

ピアス